



## コラム 招聘研究員レポート .....

名前	所属	招聘期間
倪 彩 霞	中山大學 中国非物質文化遺産研究中心 副教授	2013年9月30日～10月20日
Delphine Vomscheid	フランス国立高等研究院 博士課程	2013年10月28日～11月17日
沈 梅 麗	華東師範大學對外漢語學院 文芸民俗学専攻 博士課程	2013年11月5日～11月25日
金 羽 彬	ブリティッシュコロンビア大学 アジア学科 博士課程	2013年12月2日～12月20日
卞 夢 薇	北京師範大學文學院 民俗学与文化人類学研究所 博士課程	2013年12月5日～12月25日
Liliana Granja Pereira de Moraes	サンパウロ大学大学院 日本文化専攻 修士課程	2014年1月20日～2月9日
梁 知恵	漢陽大学校 歴史学科 韓国近現代史専門 博士課程	2014年2月11日～2月27日

### 私の訪日収穫



倪 彩 霞  
(中山大學 中国非物質文化遺産研究中心)

日本の文化財保護活動はアジアの中では最も早く展開され、1950年代にはすでに専門の法律が制定されて法に基づいた保護活動が行われていた。これを学ぶことを目的として日本で調査を行った。日本での滞在時間はとても短かったが、却って収穫は大きなものとなった。神奈川大学の文化財資料は非常に豊富で、所属する各教授の研究も日中民俗文化分野において非常に優れたものであったため、私は文化の密林の中にいるかのような毎日を過ごすことができ、とても充実した時間を過ごすことができた。

資料を蒐集する時間を除いて、金曜日は佐野賢治教授と廣田律子教授の講義に出席した。授業の中で、例えば日本の民俗習俗と富士山信仰についてなど、日本の若い研究者たちが注目する問題点について徐々に理解していった。また、日本における瑶族研究の現状についても知ることができた。廣田教授の研究チームには神奈川大学や筑波大学、国学院大学や東京大学の研究者らが所属していて、タイの瑶族や欧州の研究資料も研究対象とするなど地域を中国に限定せずに広く研究を進めており、それを知って私は大変驚き心服した。

小熊誠教授は私に東洋文庫の田仲一成先生と会う機会を手配してくれた。田仲先生は80歳近くと高齢だがかくしゃくとした方で、私が修士の頃に初めてお会いしてご指導を得たことがあった。最近では2010年に韓国でお会いし、一緒に学術討論会に参加した。今回日本で再会し、私に多くの専門的な指導をしてくださった。

最後に挙げておきたいのが、今回の指導教授である佐



田仲一成先生



菊池健策先生(左)と佐野賢治教授(右)

野教授が私を文化庁へ同行させてくれたことである。そこでは文化財保護法の改定状況や日本における無形文化財の保護原則や無形文化財と無形民俗文化財の区別、日

本無形文化財の数値化と保護状況などに関して、文化財保護の専門家である菊池健策先生にご指導いただいた。菊池先生は私の質問に答えてくださり、文化庁の最新の

研究出版物もくださった。

現在私は中国に戻り、資料の整理とともに研究を更に進めるための活動を開始している。

## 「城下町の近世武士住宅」

Delphine Vomscheid  
(フランス国立高等研究院)



2013年10月28日から2013年11月17日まで、神奈川大学の非文字資料研究センターに訪問研究員として招聘された。今私は、パリのフランス国立高等研究院の博士課程の2年生であり、東アジア文明研究センターの研究員として、日本の近世武士住宅を専門に研究している。特に、この滞在の主たる目的は金沢・松江・萩城下町の古地図と武士建築が描かれた絵画のような非文字資料を集めることであった。

まず、神奈川大学の図書館と、非文字資料研究センターおよび内田研究室の蔵書で研究した。詳しい古地図(金沢・松江・萩城下町)と武士建築の絵画(大名屋敷・城・家臣団住宅)のようなさまざまな非文字資料を見つけた。この古地図では、武士地と町人地の区別がよくわかるので、とても面白いと思う。旧城下町の武士と町人の比率を知ることができるので、このような資料は大切だと思う。絵画では、建物の江戸時代の様相が見ることができ、武士の生活がわかる。さらに、この城下町の武士住宅跡の現在写真が載っている本も見つけた。

また、11月3日には、金沢旧城下町に武士住宅跡の見学に行った。現在の金沢市には江戸時代と幕末の武士住宅が残っている。幸運にも、解体する直前の下級武士住宅の泉家を視察できた。今までこの家には人々が住んでいたが、今後は金沢湯涌江戸村に移築して博物館に実物展示されることになるという。旧中級武士の寺島家も視察した。この住宅は立派な家と庭であって、とても貴重な遺産で、中級武士の生活がよくわかる。茶室もあるし、座敷もあるし、倉もあるし、立派な庭もあるし、武士は高尚な人物であったことがうかがえる。長町の武家屋敷も見学した。下級武士の旧高田家長屋門(市指定保存建造物)がある。この建物は長屋門だけだが、入ることができるのでとても面白いと思う。実際に、中間部屋と馬屋に入ることができるので、長屋の規模がよくわかる。そのほかにも、上級武士邸宅の家来(中間)生活がわか

る。足輕飛脚の旧清水家と旧高西家も視察した。下級武士なので、家も庭も小さいが、下級武士の生活がよくわかる。また、石川県金沢城調査研究所の研究者の方にお会いして、金沢城下町の歴史について話したり、研究の資料の利用についての助言をいただいた。とても面白い出会いだった。

その後、東京の博物館にも行った。東京国立博物館の「京都一洛中洛外図と障壁画の美」の特別展を見に行った。この展覧会の中に立派な芸術作品があった。特に、洛中洛外図屏風の作品は稀に見る美しさで、これを見ることができて、とても嬉しかった。京都は城下町ではなくても、京都に住んでいた武士が大勢いたため、武士住宅が残されている(将軍邸)。また、武士の日々の生活も表現されている(犬追物の光景、儀式の光景)。そのほかにも、この展覧会の中にも京都の二条城の襖が展示されている。特に、二の丸御殿大広間四の間の「松鷹図」は立派な芸術作品であって、武士の洗練さを表現していると思う。このように、この美しい展覧会は屏風でも芸術作品でも京都の武士の文化がわかる機会であった。また、江戸東京博物館のコレクションを見に行った。特に、きれいな大名屋敷の模型があるので、建築の材料と建物の規模がよくわかり、とても面白いと思う。



写真1 金沢市(大手町)の寺島家